

こども園では、毎月避難訓練を行なっています。今年度も地震や火災を想定して、非常ベルの音を知ることから始めて、避難の仕方について紙芝居を見たり先生の話の聞いたりしながら学んでいます。今年度は、園児用の防災ずきんと、職員用のヘルメットも用意してもらい、地震の訓練の際は被る練習もしています。

7月は火災の訓練をしました。非常ベルの音と放送の指示を聞いて、指定された場所に、先生たちに誘導されながら避難しました。人数確認の後、担当の話の聞いて「お・か・し・も」〈押さない〉〈駆けない〉〈しゃべらない〉〈戻らない〉の避難する際の約束を、確

認し合いました。5歳組の子どもたちは、もうすっかり覚えていてスムーズに約束が言えていましたよ。

いつ起こるともわからない災害や事故に備え、消防士さんたちと一緒に訓練をしたり、交通安全教室を実施したり、不審者への対応なども入れながら、小さいながらも命の大切さについて、考える機会となるように取り組んでいきたいと思ひます。また、非常時は話がきちんと聞ける態度が身につけていることも大切になってきます。お家でも、避難経路や避難場所などの確認に加えてお話しが聞ける子になるように意識して育てていきたいですね。



ずきんを被って、先生の話をよく聞いてます



おやつの時間に地震の避難訓練です。素早く机の下に避難できました。

訓子府町の一大イベント第37回くんねっぷふるさとまつりが、7月9日と10日、中心街と常呂川河川敷地で開かれました。

前夜祭は、太鼓演奏や訓子府音頭、キッズダンス、行灯パレード、花火などが行われ、本祭では、歌手の八代亜紀さんやお笑い芸人の「どぶろっく」などの「歌と笑いのステージ」や牛乳ロールなどのイベントが会場を盛り上げていました。

今年も本町の姉妹町津野町の特産品べいなすなどが

本祭会場来場者に無料配布され、来場者は特産品を受け取り大喜び。津野町の皆さんありがとうございました。

津野町からお招きした「津野山古式神楽保存会」の一行が、町開基120年記念事業の一つとして「津野山古式神楽」を前夜祭と本祭で披露され、まつりを盛り上げてくださいました。

2日間、町内外から延べ2万5,000人が訪れ、夏のひとときを楽しみました。

(北海道訓子府町)



姉妹町からのお便り



「津野山古式神楽」ふるさとまつりに舞う